

【1.体制】

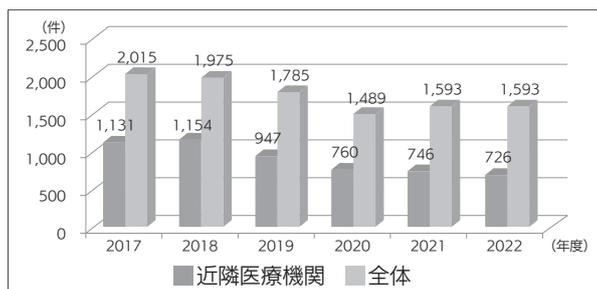
看護師3名、社会福祉士1名

【2.取組内容と実績】

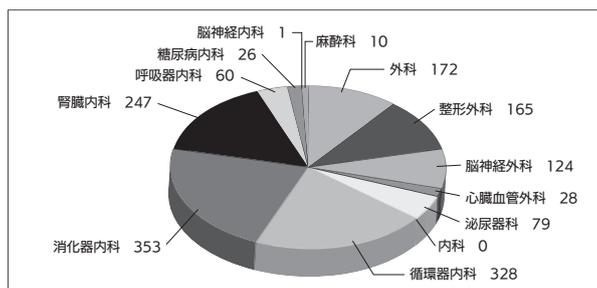
(1) 地域連携 (紹介)

全体の紹介件数は1,593件、近隣医療機関（三角町、大矢野町、松島町・宇土市の一部）からの紹介は726件で、全体の紹介件数は偶然にも前年度と全く同じであった。しかし、2022年度も近隣医療機関からの紹介は微減しており（前年比：20件減）、全体数にさほど影響していないが、2019年度から減少傾向が続いている。また、科別としては消化器内科、循環器内科、腎臓内科、外科の順で、外科の紹介が微増し、整形外科の紹介が減少した。次年度は不整脈治療を専門とする循環器内科医師が加入予定のため、できるだけ対象患者さんの紹介を受け入れ、治療が必要な場合は高次医療機関へ紹介する体制を整えていきたい。

紹介件数の推移・内訳



紹介科別内訳



(2) 連携活動

2022年度も新型コロナウイルス感染症が落ち着いた時期を見計らい、訪問活動を行った。

また、ICTを使ったオンラインでのカンファレンスや情報交換は、介護事業所についてはほとんど可能となり、医療機関でも対応してくださる医院が若干増加した。次年度は訪問活動の機会が元に戻ってくると思われるため、徐々にコロナ禍前の状況に戻していきたい。

(3) 退院支援

2022年度は退院支援加算Ⅰを710件、入院時支援加算Ⅰを38件算定した。コロナ禍の影響で前年度と比較すると件数は減少したが、各病棟配置の医療ソーシャルワーカー・退院支援看護師・外来看護師・リハビリスタッフと協働し、高齢社会が加速する地域環境の中、入退院支援に取り組んだ。

また、安心できる在宅療養を支援するため、退院支援部門・リハビリスタッフとの協働で2件の退院前訪問を実施し、感染対策を講じながら可能な範囲で在宅環境の調整にも取り組んだ。介入困難事例は、医療連携部内で情報共有や解決につながる意見交換を行い、3例の症例検討・支援の振り返りを行った。

その他、入退院支援委員会において、退院後の外来受診へ繋ぐ継続看護介入、外来サマリーの作成や外来看護師へ退院前カンファレンスの参加の依頼、外来でのIC同席、意思決定支援、専門性の高いリスク評価を行い、入院・在宅と切れ目のない支援を目指し、病棟と外来で協働している。また、2020年度より開始している外来看護師と訪問看護師間での直接連携については、在宅生活や外来診療に関する情報交換・共有、受診相談など、引き続き円滑な連携が図れている。今後も改善点など評価し継続していきたい。

(4) 出前・健康講座

常時受付はしているが、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、開催は6件/年となった。2022年度も小学校から依頼を頂き1件実施することができた。次年度も依頼があった際は最大限対応していきたい。

【3.今後の課題】

次年度は新型コロナウイルス感染症拡大前の状況に徐々に戻っていくと予想される。よって、コロナ禍前の状況に戻した方がいいものと現状維持のものを区分けしながら活動を行っていきたい。